

上質の石川観光発信

県立音楽堂 600人参加、講演や討議

ラグジュアリーライフスタイル国際会議(北國新聞社特別協力)は27日、金沢市の県立音楽堂邦楽ホールで国内外の約600人が参加して開かれ、講演やパネル討議を通じて伝統文化や料理、もてなしなど石川に根付く魅力を発信した。

会議は県内の温泉旅館、料理店、呉、金沢市などをつくる「The Real Japan いしかわプロジェクト推進協議会」が海外富裕層の観光誘致を目的に主催した。

ザ・リッツ・カールトンホテル創業者のホルスト・シュルツ氏は、観光客は地域とのつながりを感じたいと思っていると指摘。「石川はたくさんいいものを持っている。客が何を求めているか常に考

ラグジュアリーライフスタイル国際会議



パネル討議に臨む中川氏(右)とゲルマン氏(左)。中央はモデレーター丹下氏。金沢市の県立音楽堂邦楽ホール

えるのが大切」と話し

た。パネル討論会では、彫金人間国宝中川衛氏が、何が必要とされているかなどの情報を収集する重要性を説き、

「石川にはほかにはない工芸の技術がたくさんあり、現代のアートにも応用できる」と語

った。米国を拠点に活躍するグラフィックデザイナー

ナーのアレクサンダー・ゲルマン氏は、山中漆器の職人と共同でチエスの駒を作った経験を話し、「伝統工芸を残していくには魅力を伝えていく努力が必要」と話した。

仏・ミシュラン刊行のガイド本で「三つ星」評価を得ているレストランシェフのアラン・デュカス氏は、料理店「銭屋」金沢市片町2丁目主人の高木慎一朗氏との対談の中で、地域が持つ食材の魅力を引き出すのが料理人の務めと強調。会議前に訪れた近江町市場の食材を引き合いに「素晴らしい人々の手で食材が作られている」と絶賛した。

講演や対談を統括するモデレーターは、建築家の丹下憲孝氏が務めた。